

フランス語の人称転換

—二・三人称詞から« je »・« on »へ—

牧 彩花

(東北大学大学院)

フランス語ネイティブスピーカーと会話する中で、「あなた」「君」を指す二人称詞« tu / vous »や「彼」「彼等」を指す三人称詞« il / ils »が一人称詞« je »や不定人称詞« on »に置き換わってしまう奇妙なケースに遭遇することがある。この現象の興味深い点は、人称詞の変更が起こった場合に、発話者の相手に対する特別な「情意」が感じられることである。

例えば、「*Tu es belle aujourd'hui.*」 「今日のあなた綺麗ね。」と友人を褒める発話において、二人称詞« tu »が不定人称詞« on »に変更された場合、「*On est belle aujourd'hui.*」となるが、この発話は素直な誉め言葉ではなく、めかしこんできた友人をからかい、たしなめるような否定的な情意を含んだものとなる。

人称転換とは、このように、本来使われる人称詞の代わりに別の人称詞を用いることであり、この« *infraction à la logique* (=論理の違反) »によって「情的なニュアンス」が生まれると考えられている。CRESSOT(1942)、青木(1989)。

フランス語の人称転換は一人称詞« je », 不定人称詞« on »への転換を中心に幅広く展開されている。また、二人称詞・三人称詞からの転換では« je »・« on »どちらにも転換が可能であり、転換された場合に類似した意味や効果を持つものがいくつか存在するということがこれまでの研究で分かった。

本発表では、二・三人称詞から« je »・« on »への人称転換に焦点を当て、両人称転換が類似した効果をもつのはなぜか、また、両人称転換の差異は何かを明らかにすることを目指し、いまだ未解明な部分の多いフランス語の人称転換現象について検討したい。